

# 震災を超えて、 ともに未来へ

北里にとって三陸は、海洋生命科学部が基盤を置いてきた特別な場所。前学部長の緒方武比古と、現在、学部長を務める菅野信弘が、北里と三陸の絆や地域貢献をめざす取り組みなどについて語り合った。



海洋生命科学部前学部長（現常任理事）の緒方武比古（左）と現学部長の菅野信弘（右）

から緒方先生の専門である「貝毒」の研究でも成果が出ましたよね。

**緒方** はい。震災前から続けている調査で、津波の後に貝毒の危険が高まることがわかりました。ホタテ養殖は三陸の重要産業ですから、この知見が何らかの貢献につながればと思っています。

**菅野** そのほか岩手県ではシロサケも大切に



大船渡の沿岸では防潮堤の建設が進む

な水産業の一つですが、その腸内細菌に着目して健康な稚魚を育てる研究も期待が大きいですね。

**緒方** 三陸を舞台に国際的な研究も進んでいます。たとえば、サウジアラビアの大学と共同で行っている「KAUSTプロジェクト」。去年、岩手県や大船渡市の後援で国際ワークショップも開催し盛況でした。

**菅野** このKAUSTプロジェクトの基盤にある「海洋ゲノム科学」は、北里大学海洋生命科学部の研究の柱の一つ。今後が楽しみです。

**これから三陸と手をたずさえて**

**菅野** 教育面では、2014年に整備した三陸臨海教育研究センターを活用しての



住民の足、三陸鉄道は震災から3年で全線復旧した

「臨海生物学実習」をより充実させていきたいですね。昨年は120人の学生が3班に分かれてセンターを利用しましたが、施設は広くて清潔ですし、きれいな海も目の前です。評判も上々です。

**緒方** 4年生の卒業研究での利用なども含めれば、年間で延べ2,000人ぐらいがセンターに宿泊していると聞いています。在



実習や研修に活用される三陸臨海教育研究センター

に、すぐに一面に植物が育ったのを見たから。人間だって立ち直れないはずはないぞと。

**緒方** 私も自然の回復力には勇気づけられました。被災の翌年には、海中にどんどん海藻が生え、プランクトンもわっと増えました。陸より先に海が立ち直った。

**菅野** 三陸は震災前の状態をゴールにする

学生だけでなく、卒業生や学生の保護者の方々も気軽に宿泊していただきたいですね。  
**菅野** 特に卒業生は「三陸愛」が強いので、こちらを訪ねる方も多いと思います。実際、震災が起きてしばらくは、たくさん卒業生ががれき掃除のボランティアなどに参加しました。今は復興も進みましたし、観光目的での利用も大歓迎です。

**緒方** 三陸は人も街も着実に元気を取り戻してきていますからね。

**菅野** 震災直後は私もショックを受けましたけど、その一方で必ず復活できると信じていました。そう思えたのは、津波で荒野になった場所

## 教育研究機関として 地域への貢献を

**菅野** 震災から6年が過ぎましたが、北里大学は海洋生命科学部の主要機能の移転、学部新校舎の建設、そして三陸臨海教育研究センターの整備と駆け足で取り組んできて、ようやく落ち着いてきたところですね。

**緒方** その間、本学の被災体験を「東日本大震災の記録」という一冊の本にもまとめました。こうした取り組みは、現地で震災に遭遇した大学としての使命の一つと捉えています。また、被災体験に基づいた教育研究機関としての社会的役割も当然あると考えています。

**菅野** 特に三陸の海洋環境や水産資源も含めた生物・生態系などに関する40年以上の研究の蓄積は、北里だけでなく地域にとっても大きな財産ですからね。

**緒方** 我々は震災後すぐに、水産業の復興支援を目的とする文部科学省の補助事業「東北マリンサイエンス拠点形成事業」に参画しましたが、震災前の調査・研究データを持っていくことが強みになっています。加えて地元の水産業が抱える課題もいろいろ理解しています。

**菅野** 今、北里が進めている地域支援では「ドンコかまほこ」が面白い取り組みの一つですね。岩手県知事にも食べてもらったようですし、味もなかなかの評判です。それ

のではなく、より活力ある地域への発展をめざしていますよね。数年したら三陸沿岸の鉄道は南北がつながりますし、三陸を縦貫する復興道路もできる。地元産業には追い風が吹きますから、我々も何か後押しできればいいですね。

**緒方** そうですね。とにかく三陸は日本の水産業の拠点としても、生物や生態系の研究フィールドとしても重要な場所です。これからもしっかりと手をたずさえて、ともに未来へ歩いていきたいですね。

## 熊本地震被災地への 支援活動を実施

2016年4月14日および16日、熊本県で震度7の地震が発生した。北里大学病院では14日の地震発生直後より、院内に災害対策本部を設置し、医師・看護師・薬剤師などで組織された「北里DMAT（災害派遣医療チーム）」を、2度にわたり現地に派遣した。北里は海洋生命科学部が被災した2011年の東日本大震災の際にも、DMATによる医療支援を行った実績があり、今回の迅速な派遣にはそのときの経験が生かされた。

また、学祖北里柴三郎博士の故郷である熊本県小国町では、今回の地震による人的被害はなかったものの、全域に避難勧告が出された。同町で「北里柴三郎記念館」を運営する「一般財団法人学びやの里」は、研修宿泊施設「木魂館」を利用して被災者の受け入れを行った。そこで北里は、同施設にレトルト食品などの災害支援物資を届けたほか、各キャンパスにおいて復興支援の募金活動を実施。集まった886,963円の募金は、熊本県小国町を中心とする震災復興事業に充てられた。